

令和3年1月8日

受験生並びにその保護者の皆様へ

東京都市大学等々力中学校・高等学校

## 令和3年度 中学校・高等学校入学選抜試験での 新型コロナウイルス感染予防対策について

令和3年度中学校・高等学校入学選抜試験実施に向けての入学試験における「新型コロナウイルス感染予防対策」として、以下の内容をよくお読みいただきましてご協力をお願いいたします。

(※本校 HP 入試情報・募集要項詳細版に記載)

- ① 試験前日はすべての試験会場(各使用教室)の消毒を徹底して行います。
- ② 試験当日、来校の際は必ずマスクをご着用ください。
- ③ 試験当日、来校前に予めご自宅で検温をし、発熱(37.5℃以上)や咳の症状など、体調不良の場合は来校をお控えください。
- ④ 試験当日の発熱(37.5℃以上)や体調不良による別室受験は実施いたしません。
- ⑤ 試験当日、来校時にも検温(サーモグラフィ)し、37.5℃以上ある場合は、保健室で通常の体温計で再度検温し、37.5℃を超える場合は入校をお断りします。
- ⑥ 体温が 37.0℃から 37.4℃の方は、保健室で通常の体温計で再度検温を行い、37.0℃から 37.4℃の場合はこちらで指定した教室で別室受験となります。
- ⑦ 試験当日、受付で手の消毒をお願いします。
- ⑧ 試験会場にはすべての教室にサーキュレーター(扇風機)を設置し、終日作動させた状態にさせていただきます。
- ⑨ 試験の間の休み時間(15分)には毎回窓を開け、換気を徹底いたします。
- ⑩ 同居する家族や身近な方が感染、またはその疑いがある場合、2週間以内に海外への渡航歴がある場合は、ご来校をお控えください。

### (参考) 本校のこれまでの新型コロナウイルス感染予防対策

本校では新型コロナウイルス感染予防対策として、文科省通達の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」の「新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン」の「チェックリスト」を一つひとつ確認し対応した上で以下のような感染予防対策及び生徒への指導を行って参りました。今後につきましても徹底して行って参ります。

1. 感染予防の原則～基本的な予防上の注意を徹底して守ること・守らせること。  
栄養・睡眠・適度な運動を旨とした「規則正しい生活規律」で基礎体力をつけること。
  - ① 接触感染ルートを遮断する指導
    - ・手を洗うこと。
    - ・手で口鼻目を触らないこと。
  - ② 飛沫感染ルートを遮断する指導

- ・マスクをつけること。
  - ・大声を出さない(特に食事中は喋らない)こと。
- ③ 空気感染について
- ・国内の感染状況を見ても、空気感染は起きていないというのが政府の公式見解である。ただし、閉鎖空間において近距離で多くの人と、大声で会話するような場合には感染のリスクがあるという認識で次の2点の対応を常時行う。
    - 教室の換気には気を付けること。
    - 教室のドアは開けたまま授業をすること。

2. 感染症対策(「新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン」の10項目の「チェックリスト」(要約))に即した主な対応事項)

- ① 生徒・教職員の毎朝の検温
- ・各家庭で検温・健康チェックシートの記入し、担任がHRで回収し、確認の上検印する。
  - ・登校時にエントランスで検温し、学校での検温の結果「早退」となる場合がある。
- ② 手洗いや咳エチケット指導の実施
- ・前述の「感染予防の原則①②の接触・飛沫感染の項を徹底指導し、注意を喚起する。
- ③ 学校医と連携した保健管理体制を整え、清掃などで環境衛生を良好に保持。
- ・定期的に学校医・養護職員(看護師)・学校との定例会議で都度状況を確認している。
  - ・使用後の机の水拭きと教室出入り口のドアノブなどを次亜塩素酸(ジアットX)で消毒する。
  - ・昼食時に外したマスクを入れるビニール袋を持参する。
- ④ 抵抗力を高める重要性の指導
- ・栄養・睡眠・適度な運動/時間割に即した学習を注意喚起する。
  - ・規則正しい生活習慣(TQ力の発揮)を指導する。
- ⑤ 三密の解消と指導上の教職員間のコンセンサス
- ・換気の指示を徹底する。(各教室の大きな窓にストッパー施工)  
※廊下側の前後のドア・窓は常時開放する。
  - ・マスク着用と静粛指導を徹底する。
- ⑥ 給食実施上の工夫
- ・中学生は、弁当式(蓋のついた弁当)給食を実施する。
  - ・飛沫感染防止のための衝立を全生徒に配布。
  - ・中高生とも衝立状の仕切りを昼食時には必ず使用する。
  - ・ラウンジを利用する場合も必ず衝立を持参して利用する。  
※感染例の多くは食事の場である。「昼食時の私語厳禁・静粛指導」が重要との認識を共有する。

以上